

CLCからしだね書店便り

February
2024

2

今月のご案内

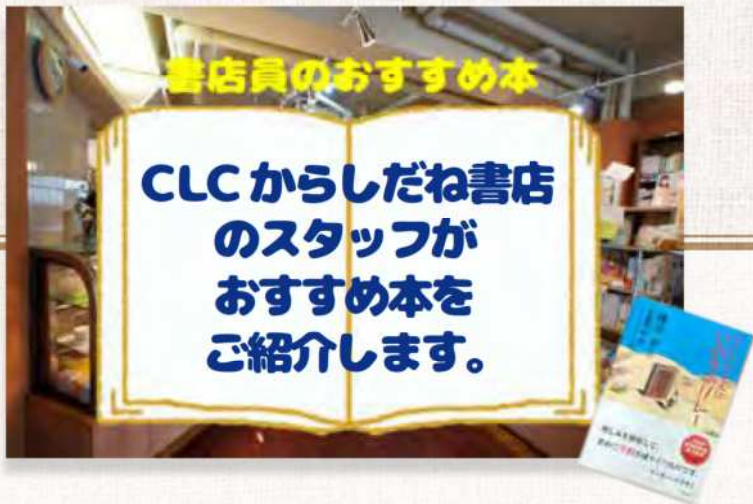
- ① 連載2回目
「子どもと大人のためのこころの対話
—信仰と哲学—」
- ② 「弱音をはく練習」講演会ご案内
沼田和也さん講演会お知らせ + 著書の紹介
- ③ CLCこひつじ書店 中橋弥生さんを偲んで
- ④ CLCアジア代表者会議 出席しました



CLCからしだね書店では…

- ① キリスト教書だけでなく、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- ② お洒落でかわいい雑貨や小物もあります。
- ③ ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- ④ コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。
- ⑤ 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、好きな本を手にとってお読みください。
- ⑥ 古書のコーナーもあります。ほりだしものもあります。
- ⑦ 読書会や著者を招いての講演会など、人と人が出会い、つながる「対話」の場を提供します。

CLCからしだね書店 & カフェ トライアングル
 営業時間 11:00-17:00
 定休日 日曜日と年末年始 (※祝日も営業)
 毎月第3木曜日は書店のみ営業



2005年、パレスチナの12歳の少年、アハメド君はイスラエル兵に撃たれて、脳死状態になりました。その臓器は、イスラエル人の子ども達に移植されました。アハメド君のお父さんは移植に際してものすごく迷い悩みましたが、「平和と平等を望む自分たちのメッセージが、みんなに届くように」という願いを込めて、移植を承諾しました。移植を受けた子どもの家族は、「感謝はしているが、パレスチナ人とは友達になれない」と言う人が多かったそうです。

そんな話を聞いた日本人医師の鎌田實さんは、自分に何かできることはないかと考え、いろいろなつてをたどって、アハメド君のお父さんと一緒に、アハメド君の心臓を受け継いだサマハという少女を訪ねる旅に出かけます。イスラエルとパレスチナの二つの家族が、心を通わせ、溶け合って「家族」になっていく様子は、胸が熱くなります。日本人である著者の鎌田さんが、二つの家族の出会いの中に加わることで、喜びはさらに大きくふくれ上がったような気がします。敵対する国や民族の間に立って、一見無関係に見える人達が果たす役割の大きさに、目が開かれました。

この本は、美しい話であるとともに、厳しい現実を突きつけられる本でもあります。

「一粒の麦地に落ちて死なずば、ただ一つにてあらん、もし死なば多くの実を結ぶべし」と聖書ありますが、死んだのはアハメド君の尊い命であると同時に、私達自身の中にある手放したくないもの、ずっと握りしめていたもの（憎しみ・しがらみ・プライド・こだわりなど）に死ぬということなのかもしれない、と思いました。二つの家族は、「地に落ちて死ぬ」という選択をし、愛と平和と喜びという多くの実を結んだのだと思います。

～作者のひびこり～

今回のポイントをまとめてみます。

- ① 聖書の教えの核心は「隣人になる」こと。もとの文脈では「在留外国人の隣人になること」や「異民族の異教徒が自分たちの隣人になったこと」を意味する。
- ② 「異質な他者の隣人になる」という福音の実践において、哲学は役に立つ。なぜなら、哲学とは、他者と共に物事の本質的な根拠（そもそも何のため？）を掘り下げていく作業だから。
- ③ 哲学対話をうまく進めていくためには、他者の価値観や抱いている実感を頭ごなしに否定しない態度や「尋ね合う」「確かめ合う」の態度が必要。

パウロは律法を要約して次のように言いました。

律法全体は、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」という一つのことで全部さされるのです。
(ガラテヤ人への手紙5章14節)

「愛」の原語はギリシャ語の「アガペー」ですが、これはもともと、「大切」と訳されていました。他者が大切にしているものを、自分が大切にしているものと同じように大切にすること。そうやって他者の隣人になっていくことです。

神がまず最初にそうしてくださいましたから、クリスチャンはその姿勢を他者に返していくことができます。異質で多様な他者と共に思考する哲学の知恵は、この意味での「アガペー」の助けになるのです。

さかおか おおじ

1988年京都市生まれ。北海道大学大学院教育学院臨床心理学講座修士課程修了。札幌市内の児童精神科で臨床心理士として勤務。本質学研究会、哲学フロンティア学会、宗教倫理学会、キリスト教教育学会等の学術誌に論文掲載。札幌市若者支援施設omni+（ユースプラス）でフカモノ哲学カフェを主宰するほか、オンラインや地域で子ども・若者と共に哲学対話を行う活動に取り組む。



「弱音をなく練習」のご案内

弱音は泣き言、恥ずかしいこと、という認識。

厳しくもとめられる自己管理。

家族や友人、

恋人や同僚にも「今さら」言えない...

そんなわたしたちの「弱音」。

教会に、地域に、家庭に、

「弱音」を分かち合える場としての

「可能性」を探ってみませんか？

そしてそこから、人が生きるといふこと、

死ぬといふことについて、

考えてみませんか。

みなさまのご参加を、

心よりお待ちしております。



ぬまた かずや
 <<沼田 和也さん>>
 牧師。1972年、兵庫県神戸市生まれ。高校を中退、大検を経て受験浪人中、1995年、灘区にて阪神淡路大震災に遭遇。かろうじて入った大学も中退。再び引きこもる。2004年、同大学院神学研究所前期課程修了。伝道者の道へ。2015年の初夏、職場でトラブルを起こし、精神科病院の閉鎖病棟に入院する。現在は東京都の小さな教会（日本基督教団王子北教会）で再び牧師をしている。



著書
 『牧師、閉鎖病棟に入る』実業之友社 (1300円＋税)
 『弱音をなく練習 悩みをため込まない生き方のすすめ』KKベストセラーズ (1800円＋税)
 『街の牧師 祈りといのち』晶文社 (1700円＋税)

語ってくださる人：沼田和也さん
 とき：2024年2月23日（金・祝）
 14:00～16:00（13:30受付開始）
 場所：からしだね館 京都市山科区勤修寺東出町75
 オンライン zoom での参加も可能
 参加費：1,000円（当日受付にて）
 オンライン参加の方は、下記にお振込みください。
 ゆうちょ銀行
 【店名】四四八【店番】448
 【預金種目】普通預金
 【口座番号】5095209
 【名義】社会福祉法人ミッションからしだね
 申し込み受付：
 TEL 075-574-2800
 FAX 075-574-0025
 E-mail clc@karashidane.or.jp
 CLC からしだね書店（担当：坂岡恵）

「私自身が生き辛さと向き合う当事者でもあるなかで、どうか日々を生きています。教会の人たちや、地域の人たちに支えて頂きながら、イエス・キリストを礼拝し、祈る。それは、祈りの場で出会うあなたと私とが、苦しみのなかでも一緒に祈ることができるということでもあります。」
 （王子北教会のホームページ「牧師よりごあいさつ」から抜粋）

★申し込み締め切りは2024年2月20日（火）です

「弱音をなく練習」講演会
 参加申込み

参加形態：来場・オンライン
 ※いずれかに○をしてください
 お名前：
 ご住所：
 電話番号：
 E-mail：

・アーカイブ配信希望（後日参加）
 しめきり過ぎても受け付けます!!



ホームページからお申込みいただけます

「牧師、閉鎖病棟に入る。」 実業之友社 14000円税込み

「ありのままでもいい」と語ってきた牧師が、ありのまま生きられない人たちと過した閉鎖病棟での2カ月。衝撃的なタイトル。牧師をなさいているみなさま、牧師の伴侶者をお持ちのみなさま、「だめだ！自分の心が壊れそうになつていふ」と、感じることはありませんか？

壊れてしまった牧師さんが、もう死ぬしかないといひ詰められたあげくにたどり着いた「閉鎖病棟」。そこでどんな出会いがあり、どんな変化があり、そうしてなぜ、今も牧師を続けているのか？牧師のお仕事って、いったい何？

「彼がここに拘束されているから、世のなかには「まともな」ひとたちだけで独占していられたのだ。世のなかの「まともな」を、彼が壊っているのだ。」



書店たよりの、
 読書感想本でも紹介しました

「弱音をなく練習」 悩みをため込まない 生き方のすすめ KKベストセラーズ 10000円税込み

このたびの講演会のテーマは、この本のタイトルそのものです。いつもちょっと無理し過ぎるあなたへ：閉鎖病棟から帰ってきた牧師からの助言です。

さあ、これから弱音をなく練習をしましょう。そんな練習は要らないってっまあ、そうおっしゃらずに。あんがい難しいんですよ、これが。弱音をなくっていうのはね、自分がどう弱っているのか、どんな苦しみを抱えているのか、人に話してみ、初めて分かることもあるんですよ。



（本書「はじめに」より）

「街の牧師 祈りといのち」 晶文社 10700円税込み

閉鎖病棟を経て、今、街の牧師として在る著者が、今、思っていること。

本書のなかで、わたしは自分が遭遇し、巻き込まれてしまったイエス・キリストの話を語っていくだろう。それはキリスト教についての神学的な叙述にはならない。なぜなら、わたしがこれから話すことは、そのほとんどすべてが、目の前に現れた他人たちとの出遭いについてだからである。

わたしにとって神について語ることはすなわち、目の前の人と出遭い、そこで生じた共感や対立、相互理解の深まりや決別、その喜びや怒り、悲しみなどの、生々しい出来事を語るのだからである。



（まえがきより）

「よくやった。
よい忠実なしもべだ」
人ではなく、
神様からほめていただける
ような生き方



▶CLCクリスチャン文書伝道時代からの
“なかよし三人娘”
2023年4月11日左端が中橋さん

からしだね書店は、コロナ禍にあった
2020年、解散したCLCクリスチャン
文書伝道団の京都の店を引き継ぐ形で、店
をオープンしました。そして、同じよう
に書店の働きを引き継いだ広島CLC、金

沢のCLCこひつじ書店と一緒に、協力し合い折り合
いながら、今日まできました。一般の書店が街から消
えていくなか、クリスチヤン書店の存在の意味を求めな
がら試行錯誤、経済的な厳しさや隣り合わせのチャレ
ンジは、それぞれの場所にあって今も続いています。同
志のような書店と書店員さんたちの存在は、大きな
励めと励ましになっています。

そんななか、金沢のCLCこひつじ書店の中橋弥生
さんが、1月20日（土）午後3時40分、主のみもとに
召されました。1月1日、能登を襲った大きな地震で、
震災支援の拠点となって奮闘しておられる内灘聖書教
会の一角にお店を構えている書店でもあり、中橋さ
んはその教会員でもあるため、葬儀も被災の痛みの

ただ中にある同教会で行われました。

中橋さんの闘病中も、ずっと書店を支えてこられた
藤尾光彦さん（一般社団法人クリスチャン文書セン
ター）が前夜式で弔辞を読まれました。藤尾さんのこ
了解を得て、ここに全文をご紹介します。さいごまで主の
しもべとして闘いぬかれた中橋弥生さんを偲びたいと
思います。どうぞ、全国のクリスチヤン書店のために、
お祈りください。

藤尾光彦さんの弔辞全文

昨日（土）ですが、私は金沢市内の教会を順番に訪
問し、月刊誌等をお届けしていました。そして夕方
に酒井先生から「中橋弥生さん召天」の連絡を受けた
のです。

少し覚悟はしていましたが、それを聞いて私は激し
く動揺しました。
約30年にわたって共に働いてきた同業者ですので、多
くの思い出があり、その情景が走馬灯のように流れて
運転しながら涙がとまりませんでした。

今から4年ほど前に当時の日本CLCが解散を決定
し、それと同時にCLC金沢店も閉店となりました。
私自身はすでに60歳近くでしたのでまだしも、中橋
さんはまだ若く、前途のある女性でしたから、働きの

場を無くしてしまったことに、店長として申し訳なく
思ったものです。

しかしまもなくして中橋さんから「クリスチヤン書店
を再開したい」という思いが告げられ、自身が個人事
業主になっても運営する方策が模索され始めまし
た。それは驚きでありましたが、現実問題を考えてと
ある意味雲をつかむような話で、無謀とも思えました。
でも中橋さんは「神様がオーナーです」といつも言っ
ていました。神のみこころであれば必ず道が開かれ
ると、信仰をもって確信していました。

やがて地元有志の牧師方を通して神様は新たな道を
備えてくださり、「クリスチヤン文書センター」とい
う、現在の社団法人体制で再出発することができたの
です。それは全く想像していない展開であり、場所も
内灘聖書教会に入れていただけることになりました。
特にこの内灘聖書教会では、臨時総会を開きながら
教会の入口近くの一等地を、書店の店舗として受け入
れる決議をしてくださり、多大な犠牲を払ってくださ
いました。そして2021年の4月、ついに内灘のこ
の場所で書店をオープンできましたが、店長としてス
タートを切った中橋さんの喜びはどれほどであったか
と思います。

そして弥生さんは新しい書店に「こひつじ書店」と

CLCアジア代表者会議が開催



CLCアジア代表者会議が、1月27日～2月2日の間、インドのチェンナイで開催されました。

日本で唯一の国際CLCのメンバーとなったCLCからしだね書店からも、スタッフの坂岡凱歌が出席し、アジアのキリスト教文書伝道を担っている各国の書店の方々との交流の時を持ちました。詳細は次号で報告します。

今回は、その帰りに立ち寄ったスリランカの空港のちょっとおもしろい写真をご紹介します。(国際CLCの話とは関係ないですが…)

スリランカは仏教が盛んな国ですが、そこでの坊さんの扱いは、日本とは全然違います。聖職者しか入れない特別待合席が用意されています。ふだん戒律を守る厳しい生活をしている仏教僧は、一般人からは尊敬されるべき対象だというのがよくわかる風景です。(ここにキリスト教関係の「clergy」がそれなりの衣装をまわって座ったら、許されるものなのでしょうか…?)



「聖職者専用」

「聖職者専用席でくつろぐ仏教僧」

いう名前をつけてくれました。そこに至るまでにはじつに多くの困難がありました。中橋さん自身の信仰、そして北陸や飛騨の多くの方の祈りによって書店の再建に「ぎづける」ことができました。本当に驚くべき神さまのみわざであります。しかしオープンしてわずか3ヶ月後の7月に病気の転移が発覚して、以後こひつじ書店で勤務することはありませんでした。そして、このたびの召天となったのです。

「神さまなぜですか、姉妹をなぜこんなにも早く天に取り上げられたのですか」という思い、それは私だけでなく、多くの方も同じだと思います。

この数年は過酷な治療と戦い続け、どれほどの体の



冬木さん (京都)

中橋さん (金沢)

石内さん (広島)

痛み、苦しみ、また恐れがあったかと思えます。でもそれら全てから解放された、天のふるさとへ帰ってゆかれました。

「なぜですか」という先ほどの問いに私は答えをまだ見いだしていませんが、きっと今が、神様の最善の時だったのだと思えます。

中橋さんはよく祈る人でした。また賛美の人でした。そしていつも感謝の人でした。文書伝道に邁進したその人生、その生き様、「神さまがオーナーです」というその信仰を、決して忘れることなく、私自身も胸に刻みたいと思います。

弥生さんの人生をここまで導いてくださった主イエス・キリストに全ての栄光がありますように。

古書献本のお願い

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担いただくとありがたいです。(受付できないものもありますので事前にお知らせください。ご事情により当店より回収に行かせていただくこともあります。ご相談ください)

【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本 (多少、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし (料理、健康、経済等) にかかわる本
- 5 小説 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

百科事典・辞書・開封済みの
CD・DVD・月刊誌・週刊誌等は
受け付けておりません

【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX：075-574-0025
Mail：clc@karashidane.or.jp

【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

【献本感謝】

大津清一郎様、貝出久美子様、大兼久文子様、近藤栄恵様 (順不同)

1月の古書の収益は20,280円でした。【古本の売上を含むCLCからしだね書店の収益は、書店で働く障がい者の工賃になります】献本くださった方のお名前を書店だよりにご紹介させていただきたいと思います。匿名ご希望の方は、お知らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

編集後記

◆能登の地震から、1か月以上が過ぎました。今もたいへん困難な中で生活しておられる被災者の皆さまに思いをはせながら、まずは心身の健康がまもられますようにと祈るばかりです。◆ミッションからしだねとしても、何ができるかを考えるのですが、起こった災害の大きさの前に、ただただ無力さを実感します。◆からしだねセンターは、障害者地域生活支援センターとして、京都市東部圏域の障害者地域自立支援協議会の事務局を担っています。そこには災害部会があり、京都で災害が起きたときのことを想定して、今できることを、地域の福祉事業所や社会福祉協議会と一緒に考えています。◆今までに起きた災害を通して、「受援力(助けを求める力)」の大切さを学びました。被災した人達を中心にやって被災した人達を助けるのには限界があります。被災地の行政や社会福祉協議会が「受援力」を高めていくことが大事で、そのためには平常時から、行政や福祉事業所が他県の行政や福祉事業所と何かあったときのために関係と交流を深める必要があると思います。◆災害が起きたときに、上手に助けられる力は、むしろ平常時に培っておくべきことかもしれません。◆被災した内灘町のCLCこひつじ書店のために、こひつじ書店を支えている教会のためにも、ぜひお祈りください。【店長】

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね
就労継続支援A・B型事業所からしだねワークス
からしだね書店&カフェ・トライアングル
〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025
書店メール clc@karashidane.or.jp

CLCからしだね書店便りの
バックナンバーはこちらから

